

1. 2020年3月期決算概況	・・・P 3
2. 2021年3月期計画	・・・P17
参考資料	・・・P32

1. 2020年3月期決算概況

売上高は3%減収も営業利益・経常利益は増益（経常利益は2期連続で最高益を更新）、一方、当期純利益は3月の株価急落によるオーストラリアエビ養殖会社の株式減損が響き減益。期末配当は50銭増配し一株当たり4円50銭。

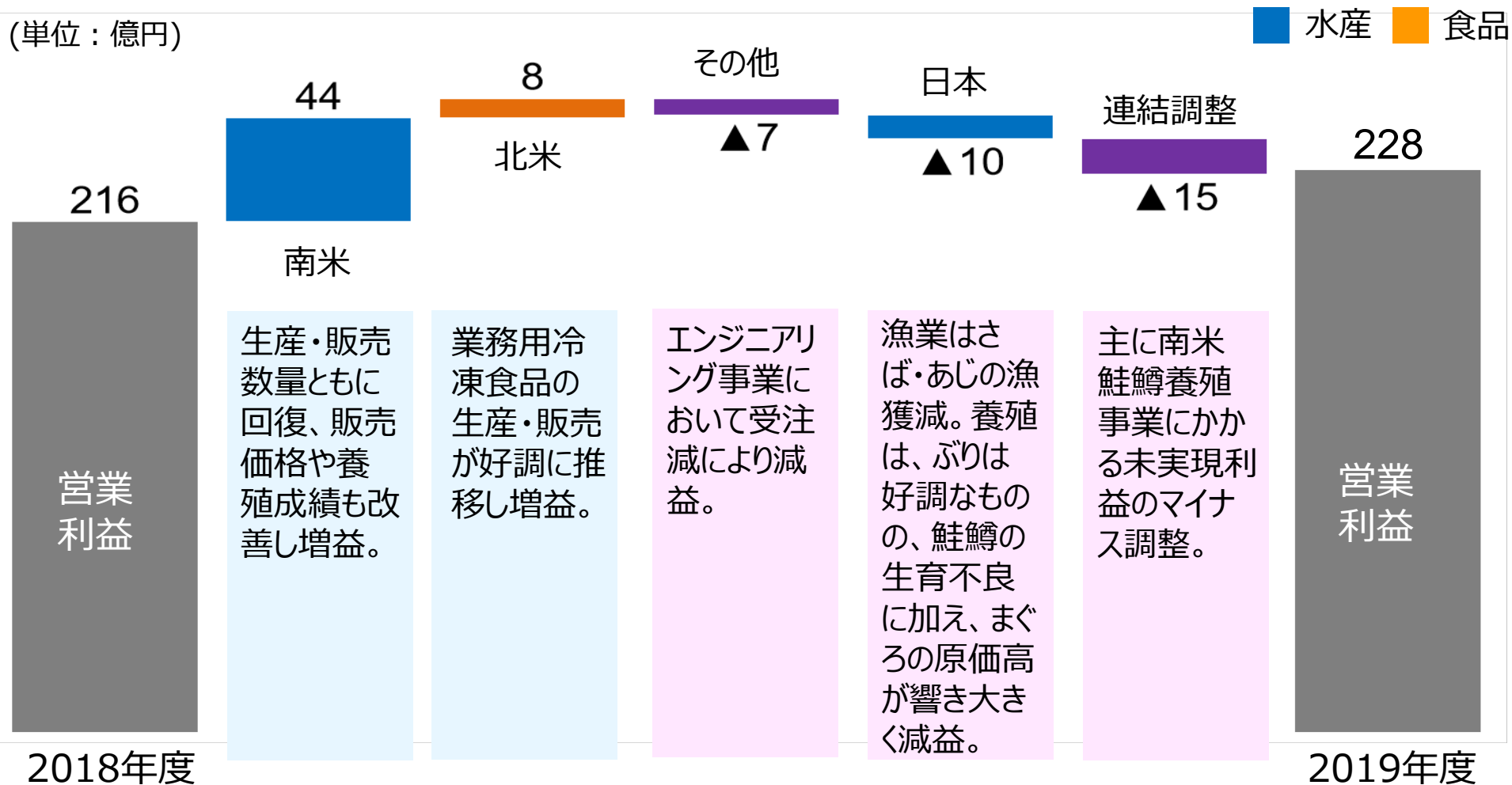
(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年比		2020年3月期 計画	達成率 (%)
			増減	(%)		
売上高	7,121 億円	6,900 億円	▲220 億円	96.9	7,000 億円	98.6
営業利益	216 億円	228 億円	11 億円	105.3	240 億円	95.1
経常利益	253 億円	258 億円	4 億円	101.8	265 億円	97.4
当期 純利益	153 億円	147 億円	▲6 億円	96.0	175 億円	84.4

※2019年2月よりチルド事業の取引形態をセンターフィー（販売費）と売上高を相殺する価格決定方式に変更しており、前期の売上高にはセンターフィー約81億円が含まれている。

その他事業（エンジニアリング事業）の大幅減収に加え、チルド事業の取引形態変更の影響約▲81億円が残るも、国内外の食品が大きく伸長し3%の減収にとどまった。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年比増減	
			(億円)	(%)
売上高	7,121	6,900	▲220	96.9
水産事業	2,944	2,895	▲48	98.4
食品事業	3,378	3,372	▲6	99.8
ファインケミカル事業	265	270	5	101.9
物流事業	166	165	▲0	99.6
その他	366	195	▲170	53.4
営業利益	216	228	11	105.3
水産事業	102	118	15	115.2
食品事業	119	127	8	107.1
ファインケミカル事業	26	25	▲0	99.5
物流事業	19	19	▲0	99.8
その他	11	4	▲7	35.8
全社経費	▲62	▲67	▲5	108.0
経常利益	253	258	4	101.8
親会社株主に帰属する当期純利益	153	147	▲6	96.0

その他事業やチルド事業、国内漁業・養殖が苦戦する中、南米鮭鱒養殖事業の大幅増益に加え、グローバルで食品事業が寄与し増益を確保。



営業利益

生産・販売数量ともに回復、販売価格や養殖成績も改善し増益。

業務用冷凍食品の生産・販売が好調に推移し増益。

エンジニアリング事業において受注減により減益。

漁業はさば・あじの漁獲減。養殖は、ぶりは好調なもの、鮭鱒の生育不良に加え、まぐろの原価高が響き大きく減益。

主に南米鮭鱒養殖事業にかかる未実現利益のマイナス調整。

営業利益

新型コロナウイルス対策として現預金を厚めに確保

() 内の数字は前期末比増減

(単位:億円)

流動資産 2,531 (+55)

現金及び預金	273 (+184)
受取手形及び売掛金	799 (▲87)
棚卸資産 (在庫)	1,310 (+23)

固定資産 2,384 (+81)

有形固定資産	1,480 (+105)
無形固定資産	103 (▲3)
投資その他の資産	800 (▲20)

総資産 4,915 (+136)

流動負債 1,968 (▲58)

支払手形及び買掛金	354 (▲139)
短期借入金	1,208 (+167)
その他	106 (▲32)

固定負債 1,223 (+132)

長期借入金	1,003 (+133)
-------	--------------

純資産 1,723 (+61)

自己資本	1,531 (+68)
------	-------------

自己資本比率

'19/3 30.6% ⇒ '20/3 31.2%

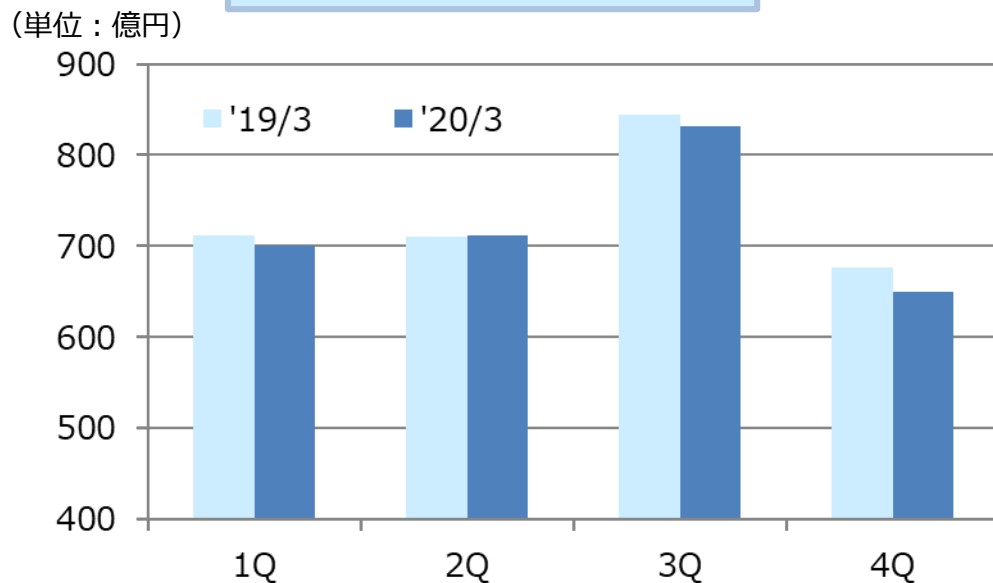
運転資本が増加したことに加え、現預金を積み増したため財務CFがプラス。

(単位:億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	246	226	▲ 19
・減価償却費 (のれん償却含む)	185	197	11
・運転資本	▲ 83	▲ 120	▲ 36
・法人税等の支払額	▲ 80	▲ 80	0
・その他	▲ 19	▲ 34	▲ 15
営業活動によるCF	246	187	▲ 59
・設備投資額 (固定資産取得額)	▲ 229	▲ 285	▲ 55
・その他	61	▲ 8	▲ 69
投資活動によるCF	▲ 168	▲ 294	▲ 126
・短期借入金の増減額	▲ 119	187	307
・長期借入金の増減額	1	114	112
・その他	▲ 42	▲ 42	▲ 0
財務活動によるCF	▲ 159	259	418
現金及び現金同等物の期末残高	161	316	

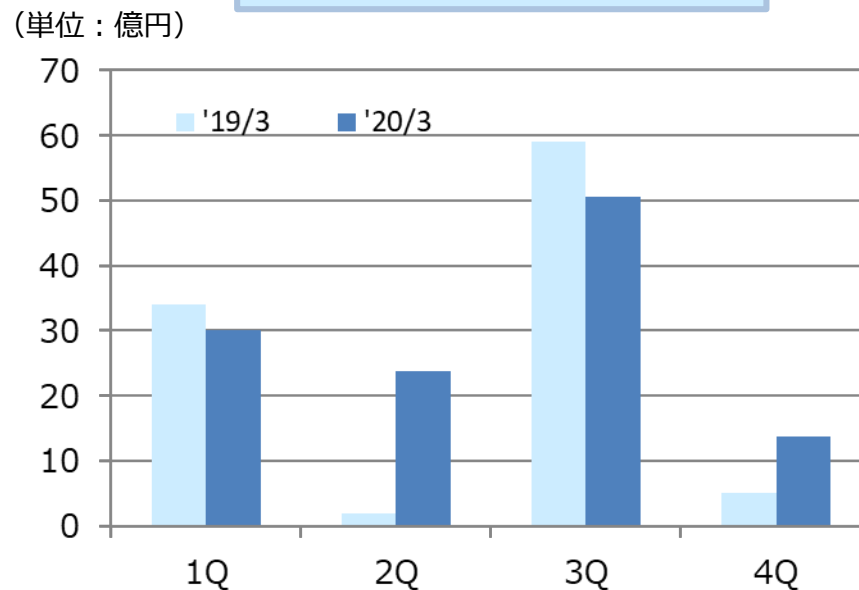
欧州は販売数量減と為替の影響が響き減収。漁業・養殖では国内は苦戦したものの、南米の鮭鱒養殖が回復し大幅増益。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年比増減	
			(億円)	(%)
売上高	2,944	2,895	▲48	98.4
営業利益	102	118	15	115.2

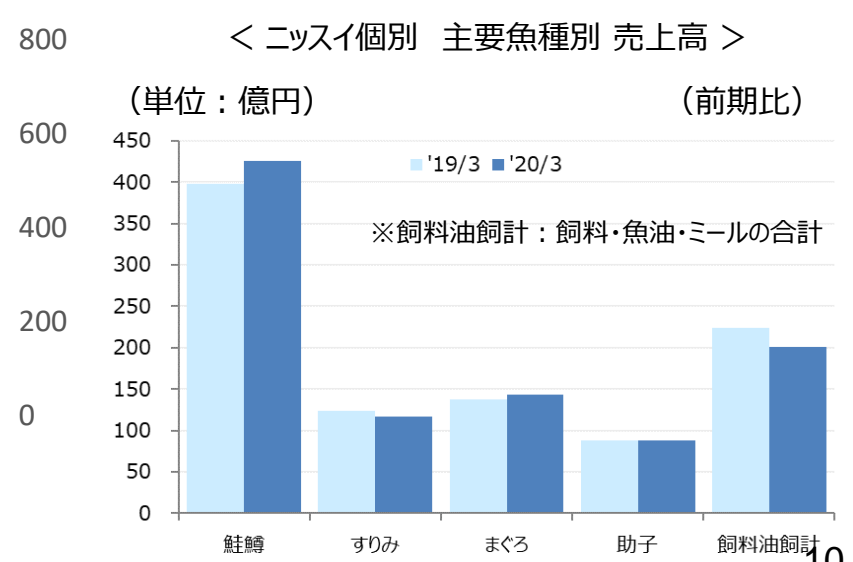
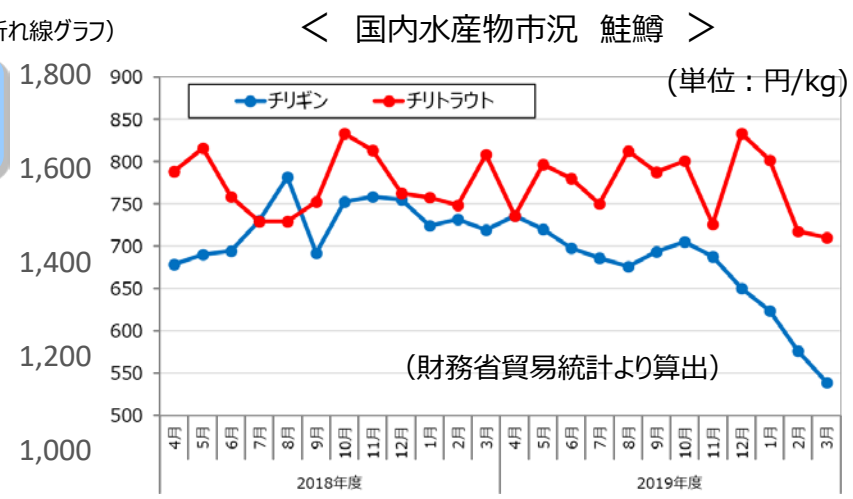
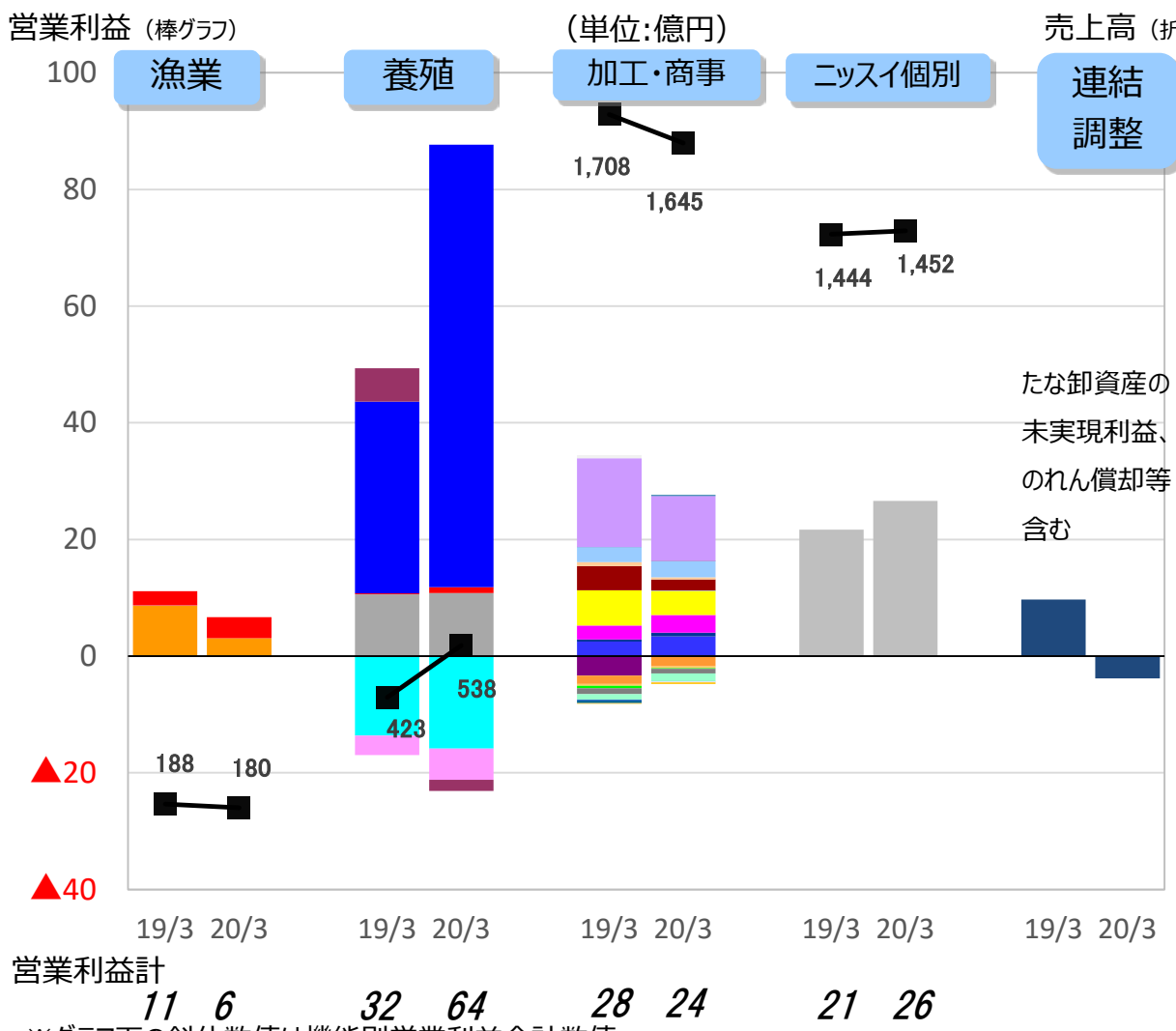
売上高 (四半期別)



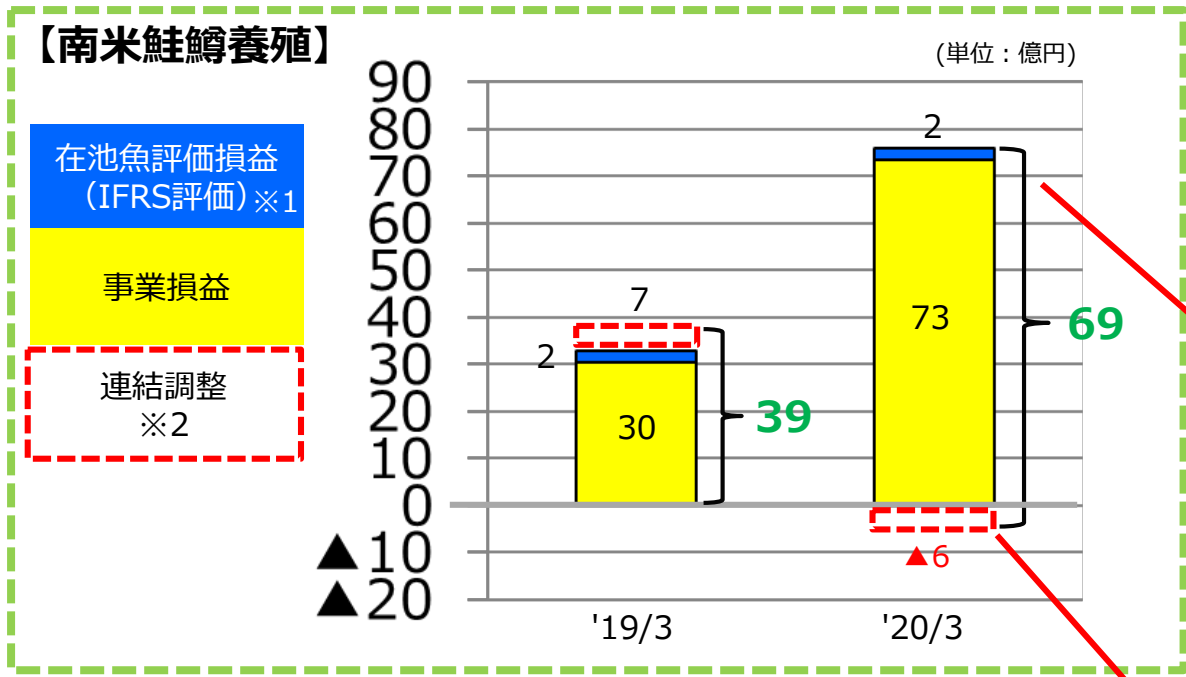
営業利益 (四半期別)



国内の養殖はぶりが好調も、まぐろ・鮭鱒は苦戦。国内の販売はぶりの取扱増もあり増益。



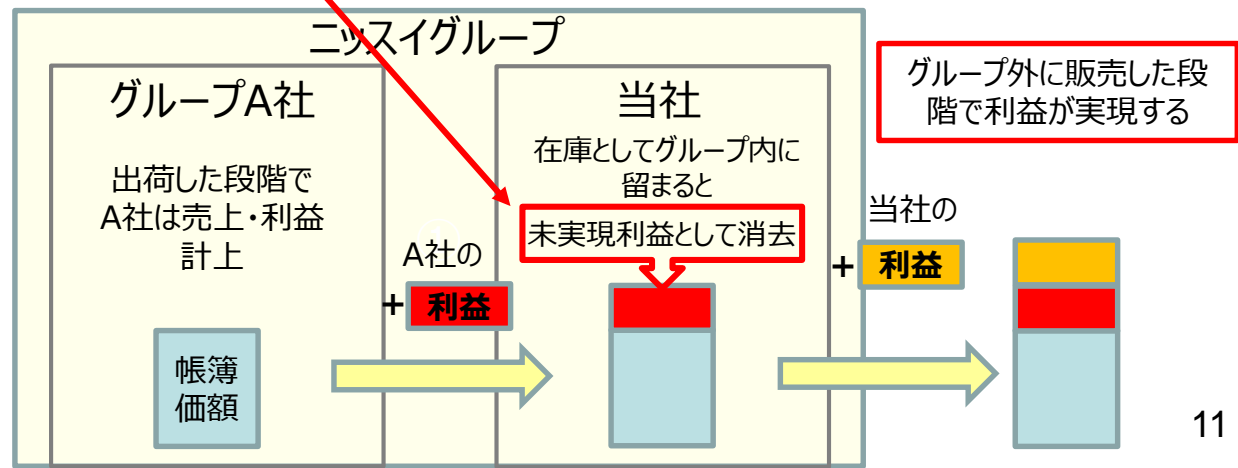
未実現利益を含めた連結への影響は+30億円



※1 在池魚評価損益
国際財務報告基準 (IFRS)に基づき、海面養殖魚（在池魚）について出荷想定価格による評価を実施

※2 在庫に含まれる未実現利益の調整

グループ内の在庫に含まれている利益を消去する決算調整

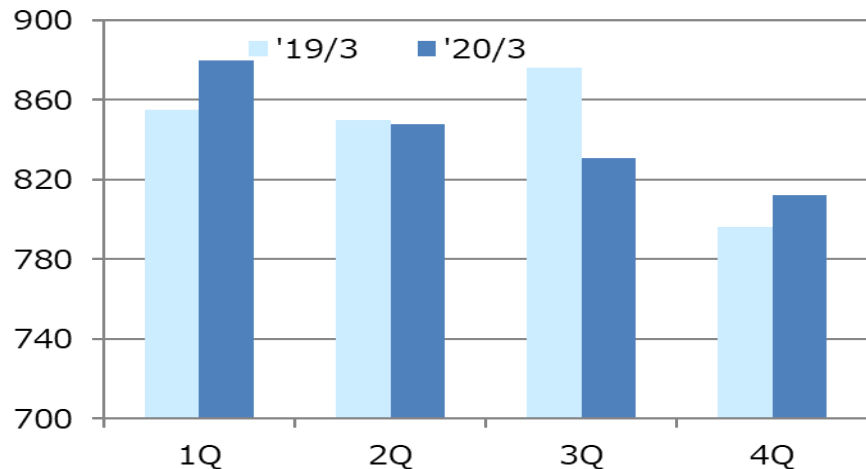


チルド事業は大幅減収も、国内外とも冷凍食品を中心に販売は好調。
利益はチルド事業の減益をカバーし増益。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年比増減	
			(億円)	(%)
売上高	3,378	3,372	▲6	99.8
営業利益	119	127	8	107.1

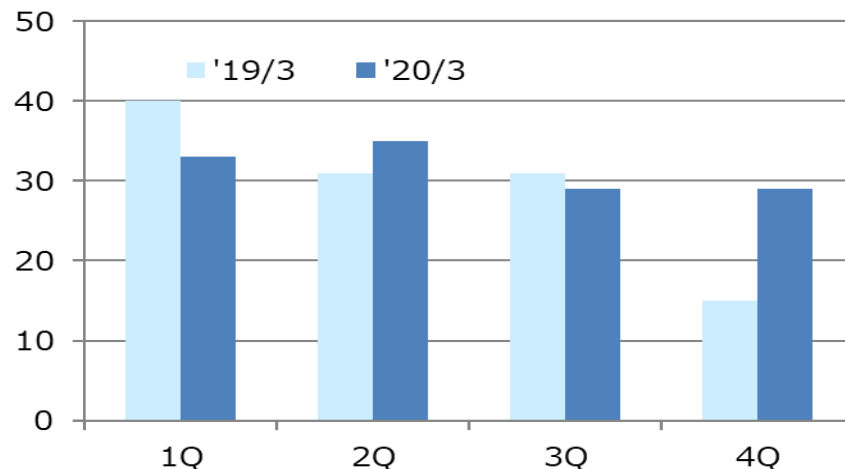
売上高 (四半期別)

(単位：億円)

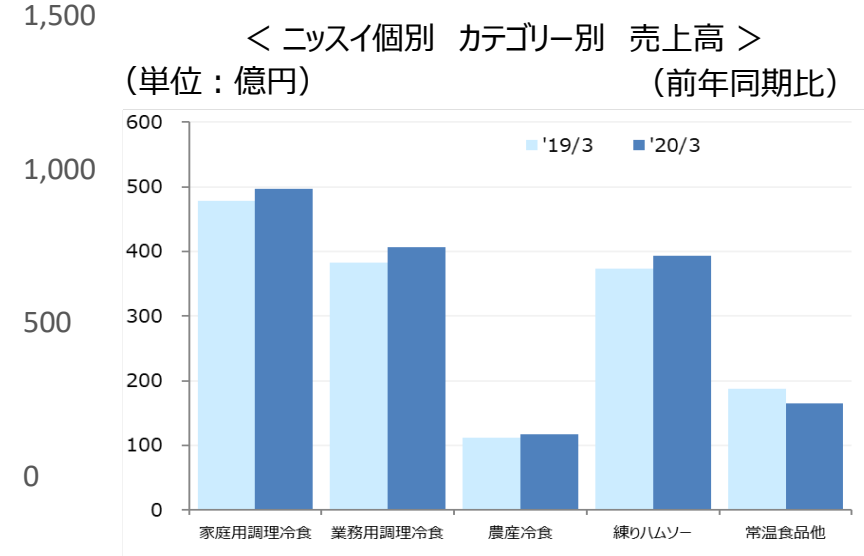
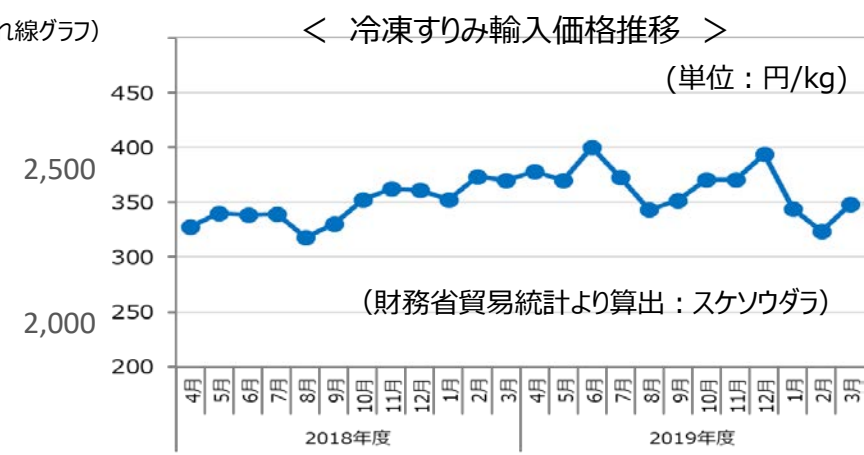
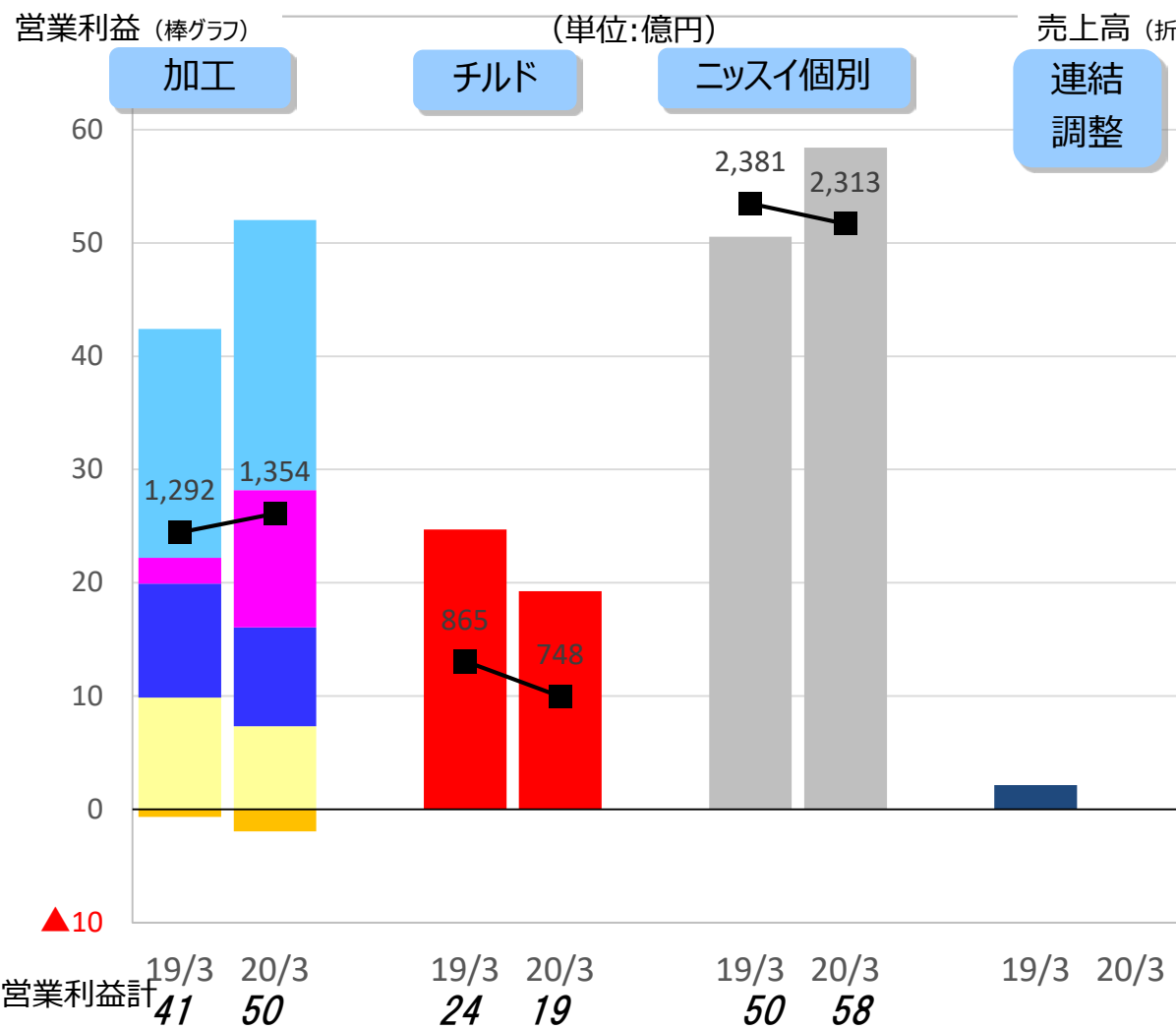


営業利益 (四半期別)

(単位：億円)



国内は冷凍食品・魚肉ソーセージなどが好調、北米は業務用冷凍食品の販売が好調に推移。欧州も原料コストUPがある中、増益を確保。



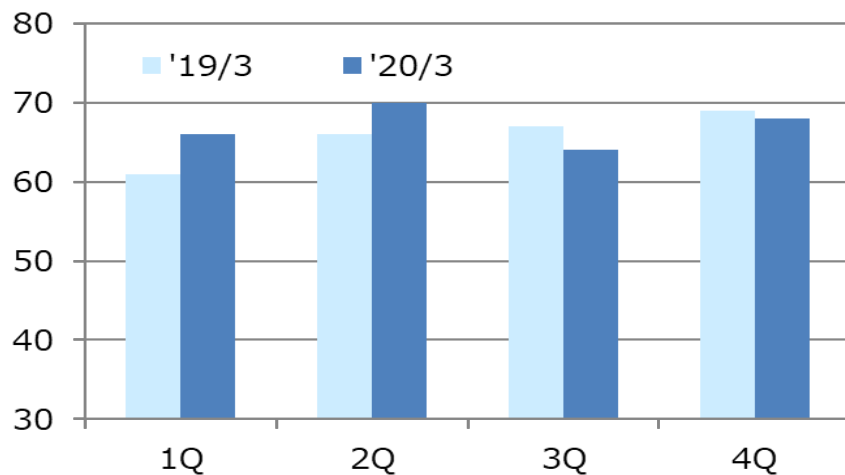
※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値

機能性原料の販売は国内外とも順調に推移、診断薬は販売堅調も原価率上昇により減益となり全体では前年並み。

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年比増減	
			(億円)	(%)
売上高	265	270	5	101.9
営業利益	26	25	▲0	99.5

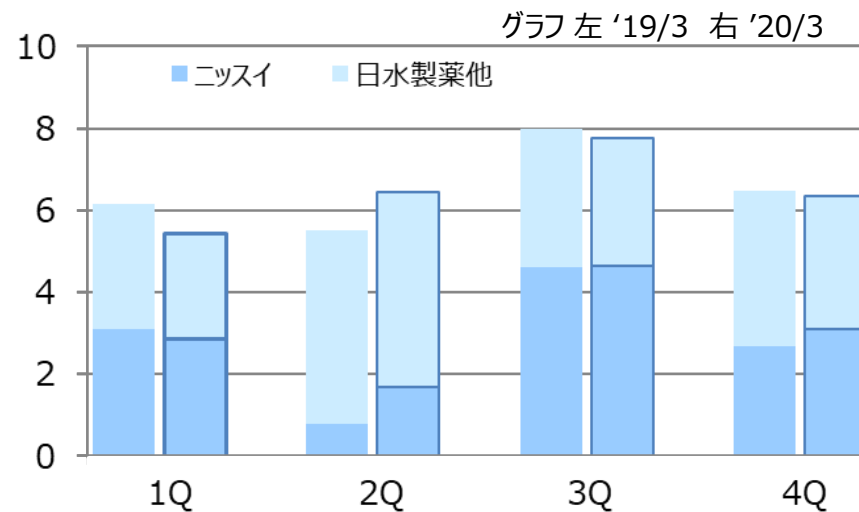
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

(単位：億円)



冷蔵倉庫事業・配送事業が順調に推移し、退職給付債務の算定方法変更の影響を概ねカバーし前年並み。

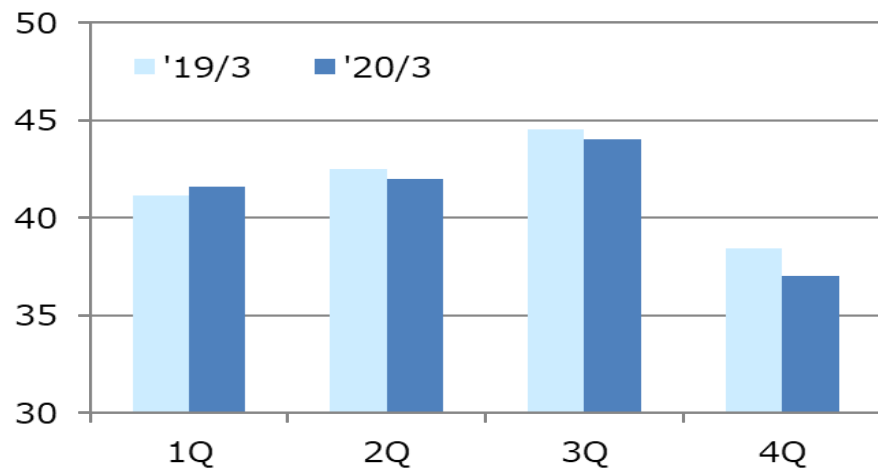
(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年比増減	
			(億円)	(%)
売上高	166	165	▲0	99.6
営業利益	19	19	▲0	99.8



日水物流「大阪舞洲物流センター2号棟」2020年3月26日竣工、4月1日より営業開始
設備能力24,887トン

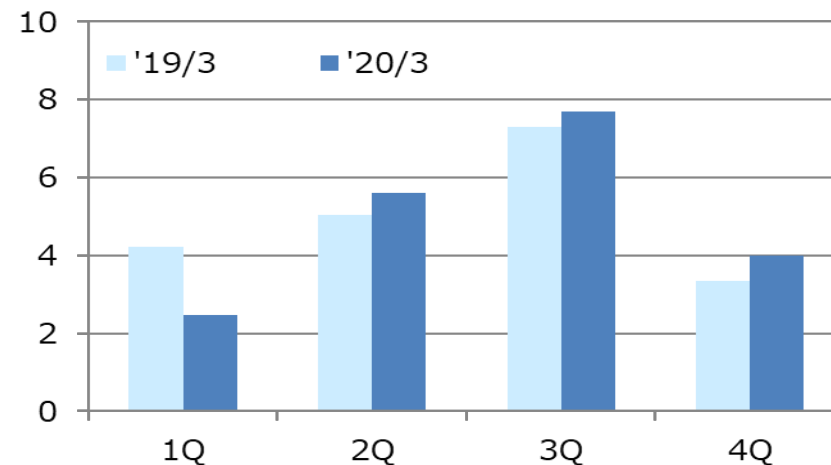
売上高 (四半期別)

(単位：億円)



営業利益 (四半期別)

(単位：億円)



エンジニアリング事業は大型案件の受注減が響き減収・減益

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年比増減	
			(億円)	(%)
売上高	366	195	▲170	53.4
営業利益	11	4	▲7	35.8

主な増減要因について

エンジニアリング事業はグループの受注が中心となっているが、前期（2019年3月期）はグループ外の冷蔵倉庫建設等の大型受注があった。今期はその反動があり減収減益となった。

その他事業

【エンジニアリング事業】

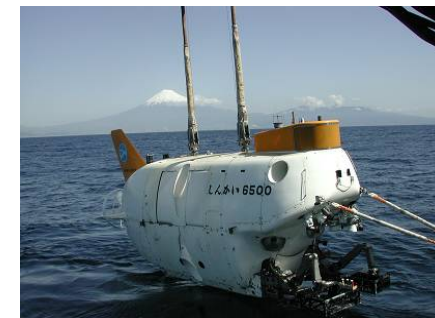
- プラント・設備機器の企画・設計・製作
- 建設に関する企画・設計・施工



日水物流舞洲物流センター

【海洋関連事業】

- 海洋・深海調査船や探査機などの運行・管理業務を受託
- 船舶の建造・修繕



日本海洋事業が運航受託している有人潜水船「しんかい6500」(JAMSTEC所有) 16

2. 2021年3月期計画

ファインケミカル事業の海外展開や国内漁業・養殖の回復を見込むが、南米鮭鱒養殖事業の減産に加え、新型コロナウイルスの影響で日米欧とも厳しい事業環境を想定している。
売上高は3%減収、営業利益・経常利益は約17%減益も、当期純利益は株式減損の影響が無くなり前年並み。

	2020年3月期 実績	2021年3月期 計画	対前年比 増減	(%)
売上高	6,900 億円	6,700 億円	▲200 億円	97.1
営業利益	228 億円	190 億円	▲38 億円	83.2
経常利益	258 億円	215 億円	▲43 億円	83.3
当期 純利益	147 億円	150 億円	2 億円	101.6

プラス面・マイナス面それぞれの影響があるが、国内のチルド事業、日米欧の外出需要が激減し、業績を下押し。

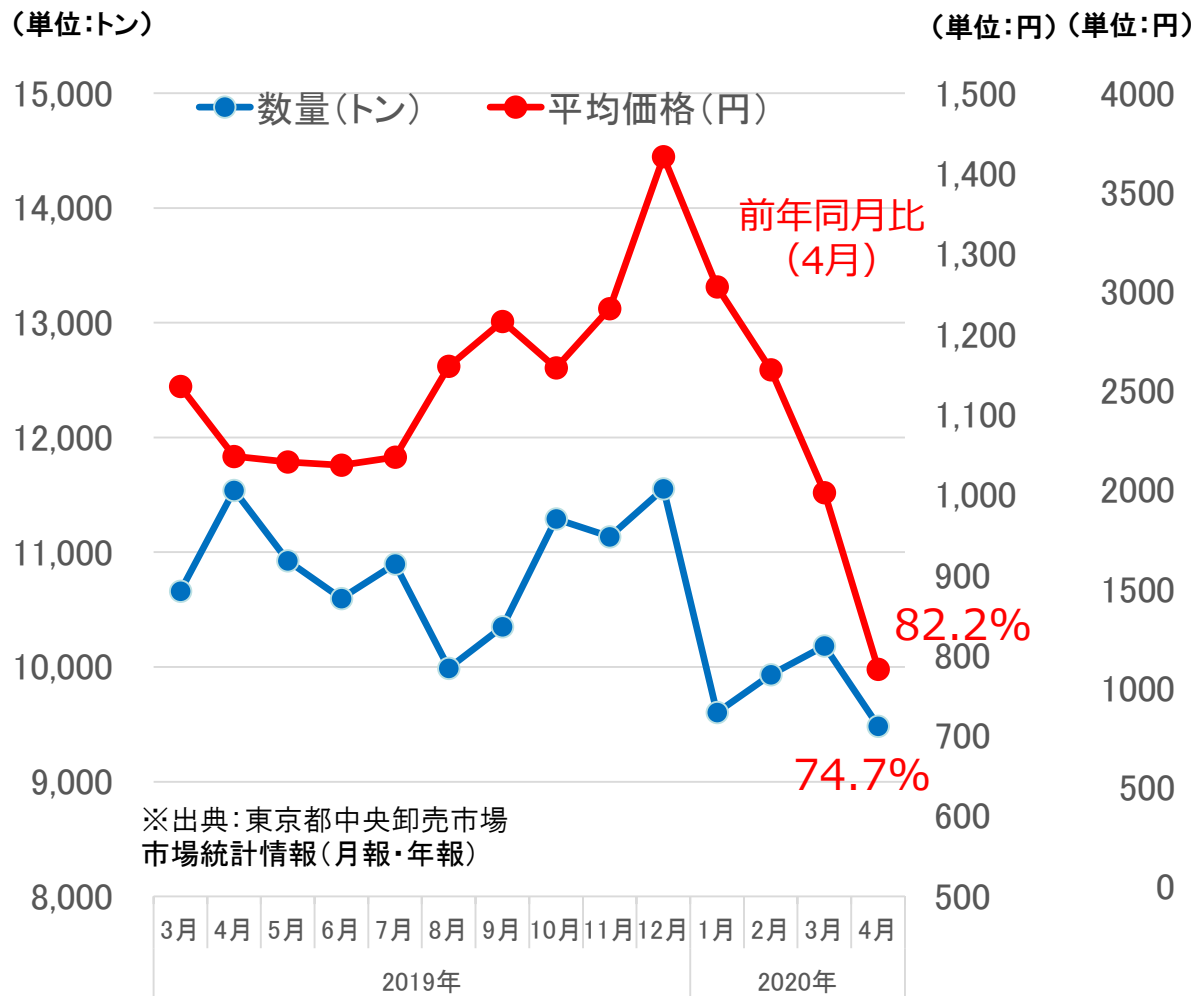
共通	+	・家庭内消費の増加、家庭用食品（冷凍食品・チルド商品）の販売が好調
	-	・ロックダウン・外出自粛により、ホテル・レストランなど外出需要が急減 ・需要減による水産市況の悪化
日本	-	・都市部を中心にCVS来店客数大幅減少→チルド事業苦戦 ・安定供給のため生産品目を集約
北米	-	・外出向けの水産物や冷凍食品が急減 ・水産・食品事業とも、コロナ禍で人員確保のコストが増加
南米	-	・当局の指導により密を避ける生産とせざるを得ず、人手のかかる高付加価値品の比率が減少
欧州	-	・英国・フランスを中心に欧州全域で外出向け水産物が減少 コロナ禍で人員確保のコストが増加

新型コロナウイルスの影響について ② 水産市況の動向

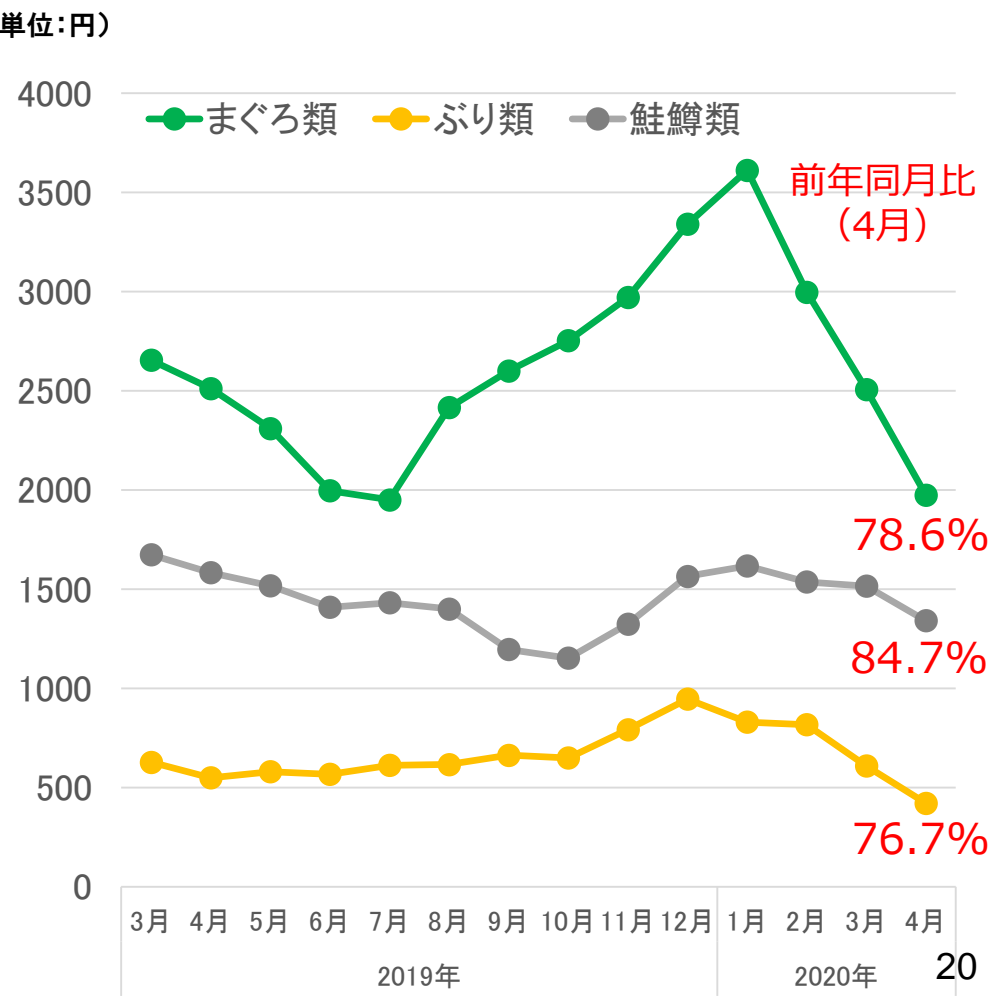


新型コロナウイルス感染拡大を背景に、高級魚の販売急減が響き、4月から価格が急落。

＜豊洲市場の鮮魚全体の取扱い数量と平均価格推移＞

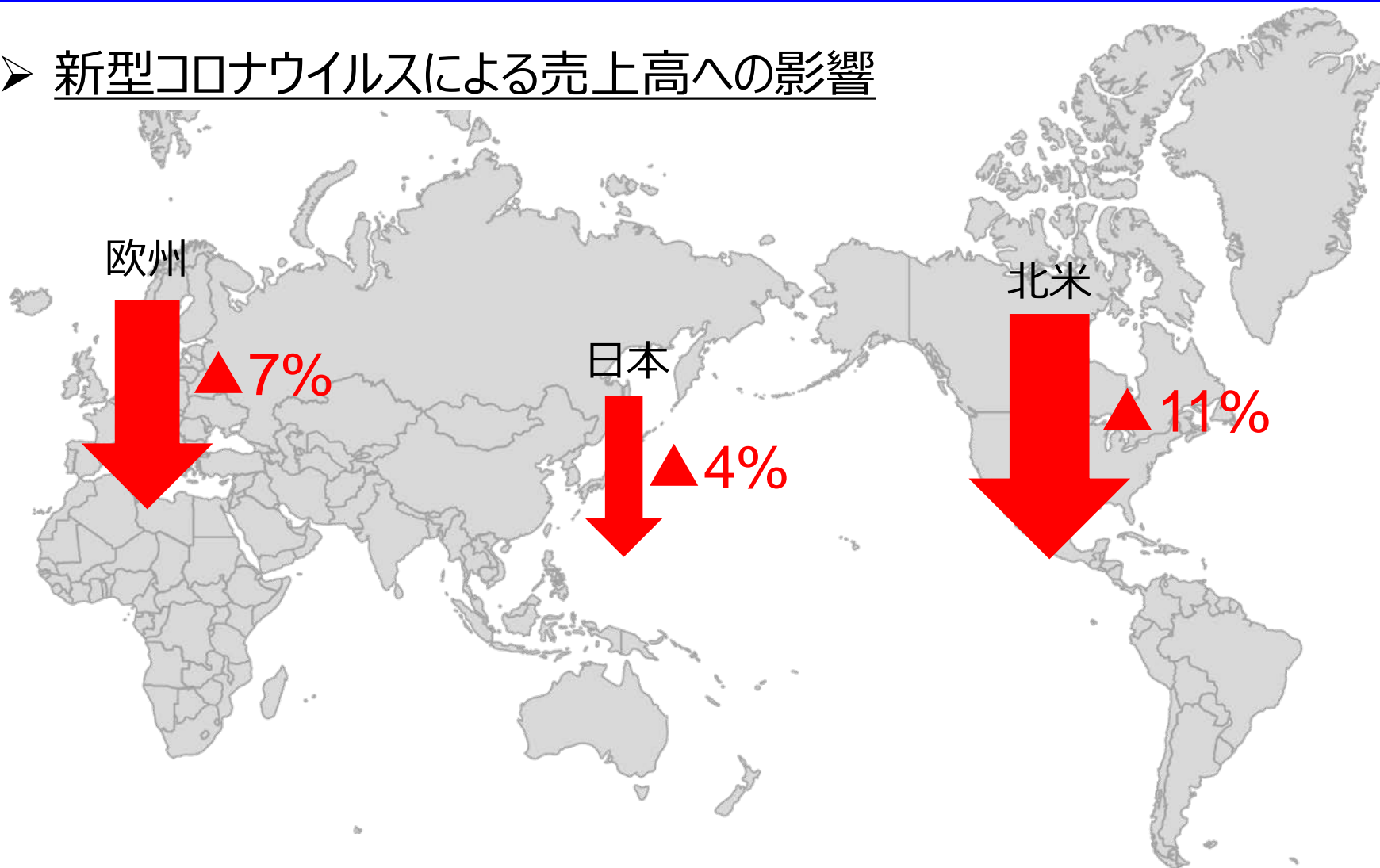


＜豊洲市場の魚種別平均価格推移＞

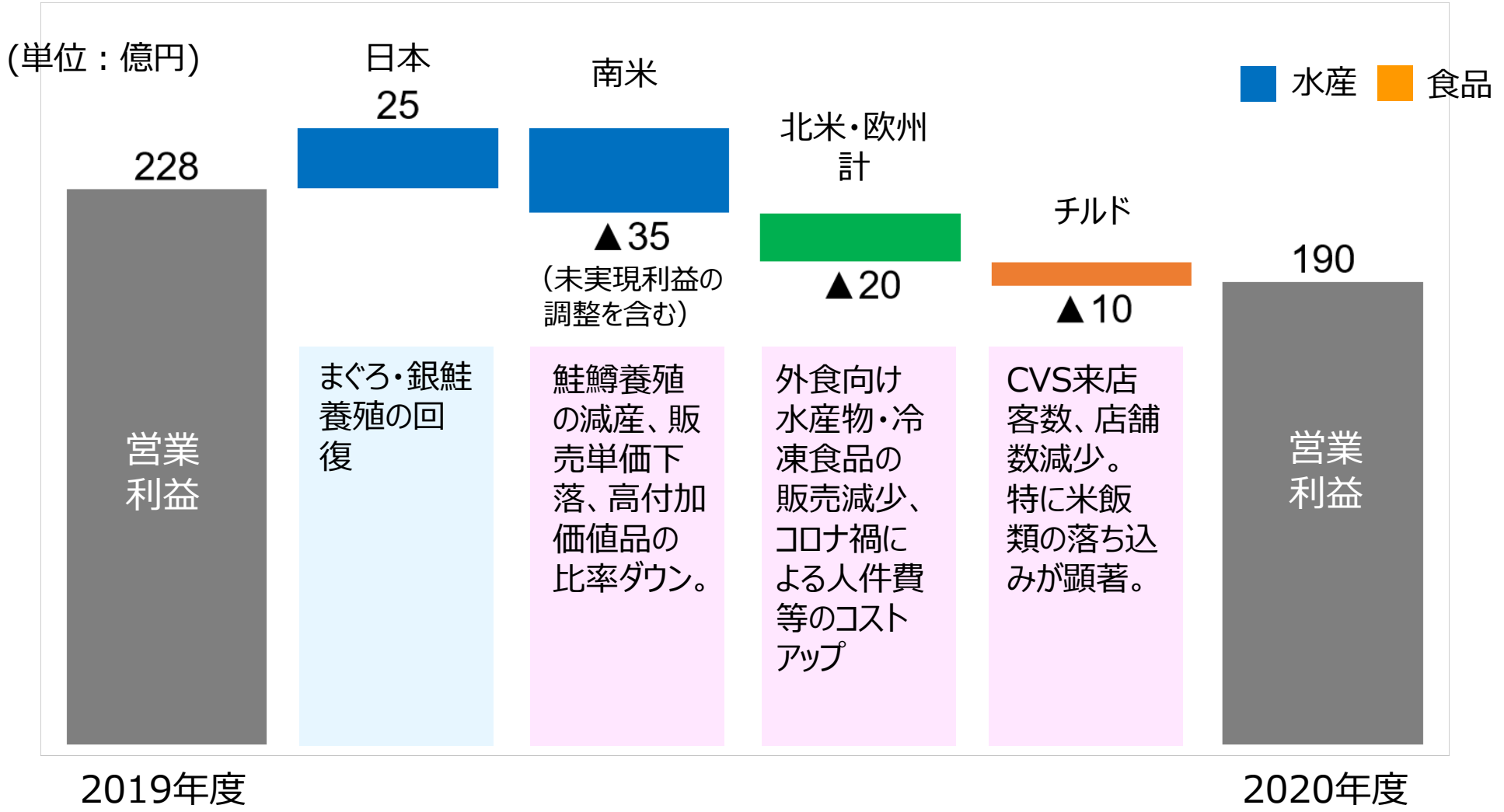


新型コロナウイルスの甚大な影響が9月末まで継続すると想定。売上高への影響をエリア毎に仮定し、300億円強の減収を見込む。

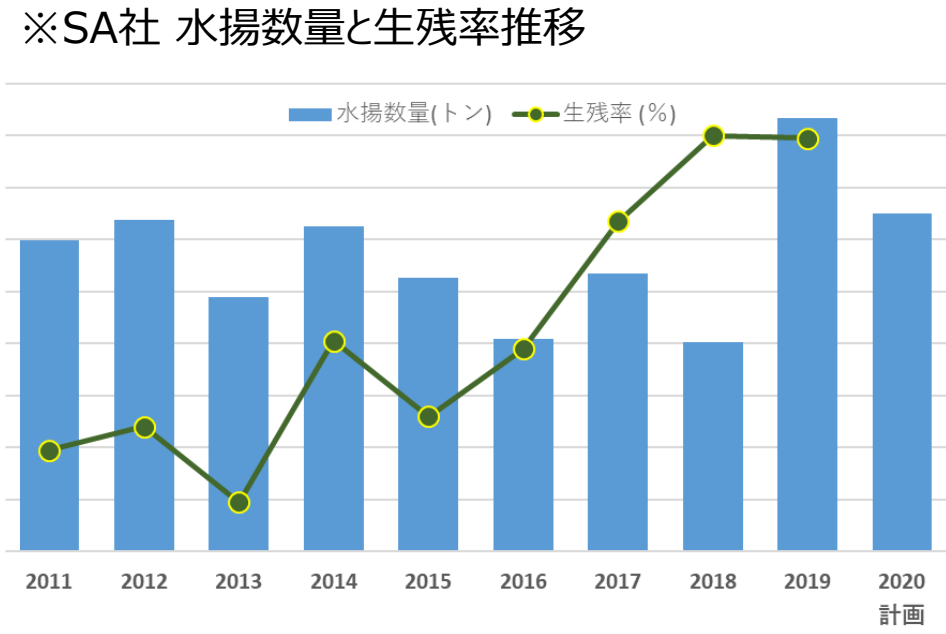
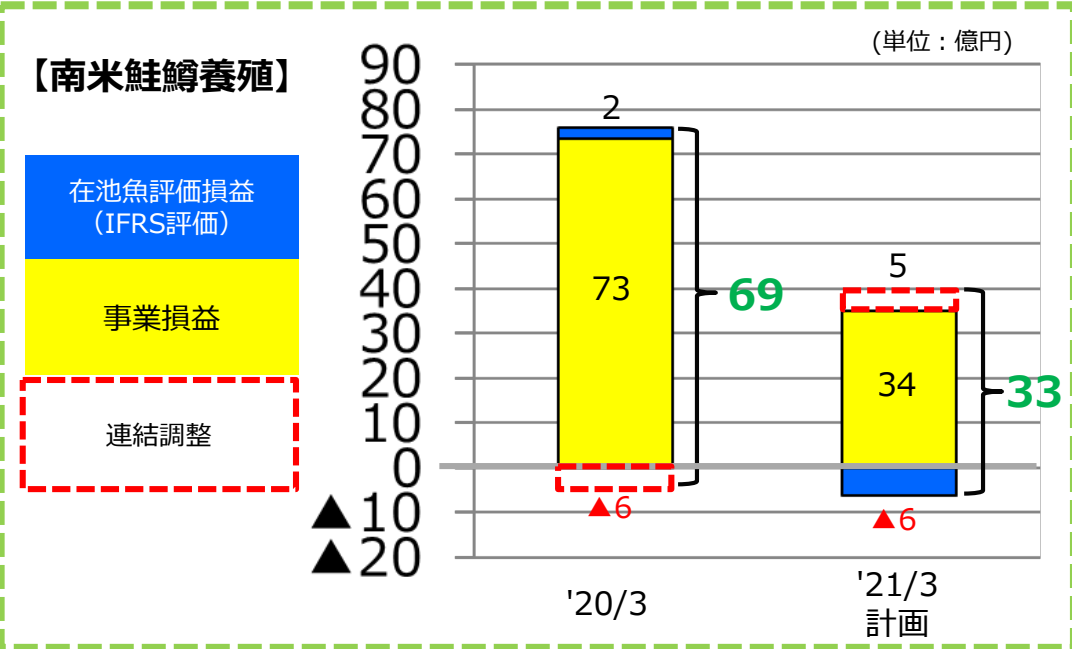
➤ 新型コロナウイルスによる売上高への影響



新型コロナウイルスの影響はチルド事業、海外事業に影響大



未実現利益を含めた連結への影響は▲35億円



- 環境保全の為、エリア毎に養殖場の使用規制があり、水揚げ可能な漁場は毎年変わる
 - 養殖場毎に養殖成績に差が生じる
- ↓
- 2019年度は養殖成績が好調なうえ、生簀の追加もあり大きな水揚げとなったが、2020年度は平年並み
 - 新型コロナウイルスの影響により、高付加価値品の比率ダウン

米国Amarin社「VASCEPA」への高純度EPA供給に向けて

Amarin社との契約締結とFDA認可に向けた最終段階



2020年中に米国への供給開始見通し

鹿島医薬品工場



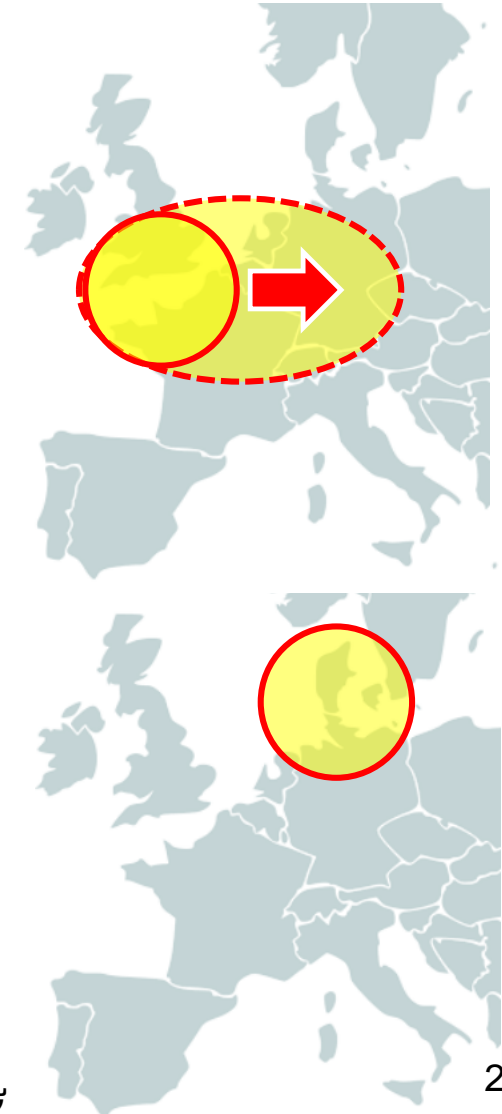
Amarin社



欧州の水産・食品事業の拡大

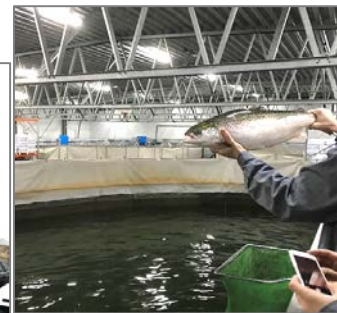
➤ 英国・フランスを基点としたエリア拡大

- ・水産フライの取扱い強化、フランスの東エリアへ拡大
- ・畜肉・魚を使用しない植物由来タンパク質食品の拡大



➤ デンマークのサケ閉鎖循環式養殖企業に資本参加

- ・丸紅株式会社様とともに資本参加。
- ・安定的飼育環境、環境負荷の抑制、消費地近隣による鮮度向上・物流コスト低減等を活かし、サステナブルな水産物の調達力強化を狙う



閉鎖循環式養殖施設

養殖事業の安定化と拡大、収益基盤強化

➤ まぐろ養殖の回復

- ・飼育期間の短縮等による養殖成績の向上
- ・産地加工拡大による付加価値向上・収益力強化



金子産業でのまぐろ養殖の様子



西南水産
上浦裁割施設



➤ 銀鮭養殖の安定化

- ・自製率UPによる種苗品質の向上
- ・AI及びIotの活用による適正給餌



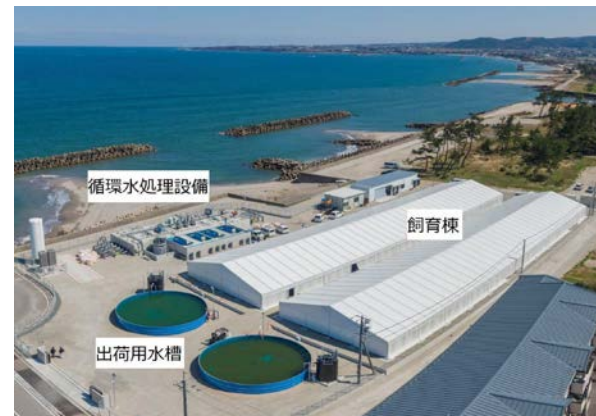
弓ヶ浜水産銀鮭採卵センター

➤ ぶり養殖拡大

- ・周年供給に向け、種苗センターの設備増強、大型生簀導入による生産性向上

➤ 陸上養殖の展開

- ・マサバ循環式陸上養殖試験開始
- ・エビ陸上養殖の事業化試験



マサバ循環式
陸上養殖施設
弓ヶ浜水産
「米子陸上養殖センター」
2020年5月竣工

多様なライフスタイルに対応した、新たな価値と市場を創造

- 新しい生活様式、リモートワーク需要への対応
 - ・家庭ですぐに食べられる冷凍食品、チルド惣菜の充実
 - ・スケソウダラタンパク質の有用性を活かし、「速筋タンパク※」を打ち出したアプローチ



事業を通じて社会課題を解決し、成長することを目指します

➤ 健康経営の推進

- ・「健康経営銘柄」2年連続選定
(経済産業省と東京証券取引所の共同で選定)
EPAに着目した従業員の健康づくりが評価された。



健康経営銘柄 2020

Health and Productivity

➤ 「森・川・海」の保全活動を拡大

持続的な資源利用のための、森林保全活動は大きな意味を持ちます。鳥取県大山隠岐国立公園内に設けた「おさかなをはぐくむ湧水と海を守る森」活動が、「国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)※」の連携事業として認定されました。



UNDB-Jのシンボルマーク

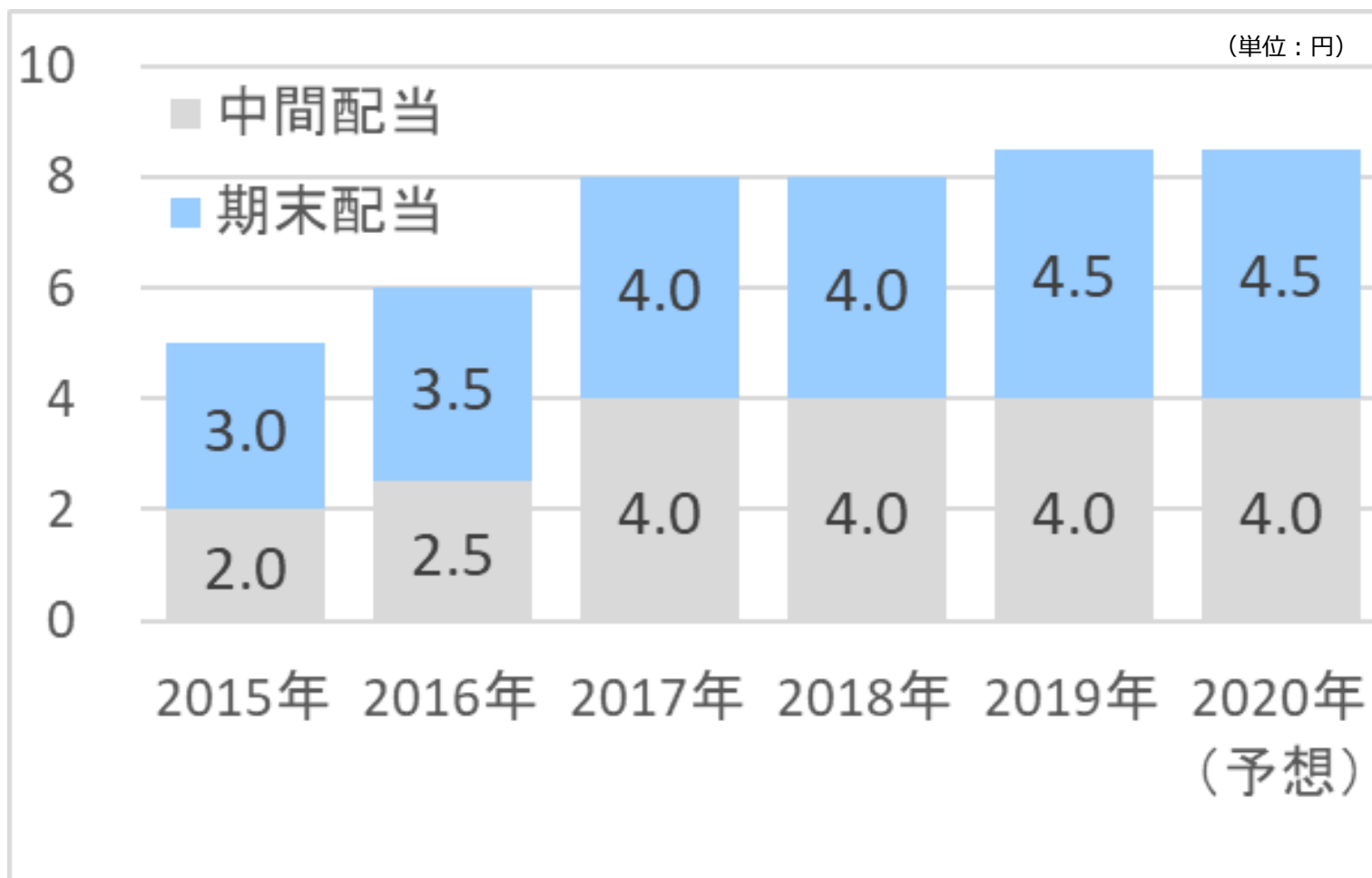
※UNDB-Jとは

国連で2011～20年までの10年間を「国連生物多様性の10年」と定めており、UNDB-Jは、国内で生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組みを推進するために、2011年9月に設立されました。



保全活動の参加者。背景は船上山

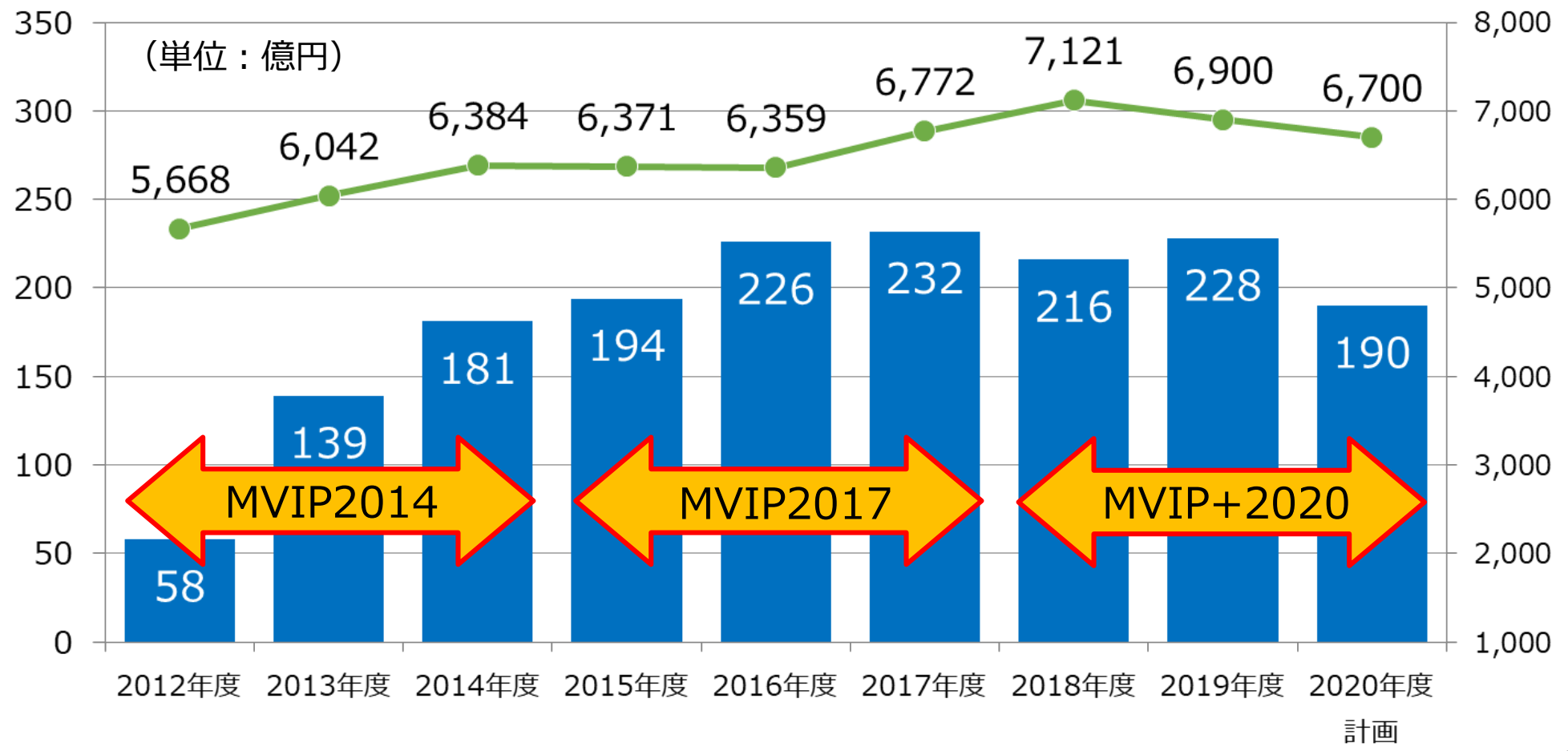
長期的・総合的視野に立った成長投資とリスク対応力向上のバランスに配慮しつつ、配当性向を15%～20%にすることを中計の目標としており、2020年度もこれに沿った配当を予定。



中計最終年度の計画の達成は困難。2021年度に向け対策を打つ。

(棒グラフ: 営業利益)

(折れ線グラフ: 売上高)



Global Links

新型コロナウイルスの
ダメージを最小化し
成長に向けた施策を打っていく

3月の株価急落の影響を受け株式減損18億円

(単位：億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	7,121	6,900	▲ 220	} チルド事業の取引形態の変更影響 ▲81 ※営業利益への影響なし
売上総利益	1,387	1,337	▲ 49	
販売費・一般管理費	1,170	1,109	▲ 60	
営業利益	216	228	11	
営業外収益	55	51	▲ 3	為替差益▲5
営業外費用	18	21	3	
経常利益	253	258	4	
特別利益	11	2	▲ 8	投資有価証券売却益▲5
特別損失	18	34	15	オーストラリアエビ養殖会社等の投資有価証券評価損+18
税金等調整前当期純利益	246	226	▲ 19	
法人税等	61	69	8	
法人税等調整額	21	3	▲ 17	SA棚卸資産未実現利益にかかる税効果調整▲5
当期純利益	163	152	▲ 10	
非支配株主に帰属する 当期純利益	9	5	▲ 4	
親会社株主に帰属する 当期純利益	153	147	▲ 6	



円高（対ユーロ・デンマーククローネ）によるマイナス影響が拡大

主要在外会社の 為替換算レート	2019年3月期 実績		2020年3月期 実績		前年比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,092	1,205	1,261	1,378	168	173	186	▲13
EUR(百万ユーロ)	266	345	304	371	37	25	49	▲23
DKK(百万クローネ)	3,157	550	2,924	478	▲233	▲72	▲40	▲31
その他通貨	—	235	—	231	—	▲3	▲2	▲1
計		2,337		2,459		122	193	▲70

【参考：為替レート】

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	変動率	2021年3月期 計画レート	変動率
米ドル (USD)	112.58円	109.33円	▲2.9%	108.00円	▲1.2%
ユーロ (EUR)	128.21円	121.53円	▲5.2%	123.00円	1.2%
デンマーククローネ (DKK)	17.18円	16.26円	▲5.3%	16.00円	▲1.6%

※右表の為替レートは
第4四半期の平均

【参考】セグメントマトリックス 売上高(前期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	2,428 (▲1)	469 (25)	319 (100)	73 (▲3)	527 (▲67)	3,818 (53)	▲922 (▲101)	2,895 (▲48)
	2,429	444	218	76	595	3,764	▲820	2,944
食品事業	3,407 (▲191)	589 (49)		72 (0)	401 (17)	4,471 (▲124)	▲1,098 (118)	3,372 (▲6)
	3,599	539		72	384	4,596	▲1,217	3,378
ファイン事業	293 (4)			4 (0)		298 (5)	▲28 (▲0)	270 (5)
	289			4		293	▲28	265
物流事業	323 (8)					323 (8)	▲157 (▲9)	165 (▲0)
	315					315	▲148	166
その他事業	301 (▲163)			1 (▲0)		303 (▲163)	▲107 (▲6)	195 (▲170)
	465			1		466	▲100	366
仮計	6,755 (▲343)	1,059 (75)	319 (100)	152 (▲2)	929 (▲50)	9,214 (▲221)		
	7,099	983	218	154	979	9,436		
連結調整	▲1,803 (117)	▲157 (▲14)	▲223 (▲94)	▲116 (▲7)	▲14 (▲0)		▲2,314 (0)	
	▲1,921	▲142	▲129	▲108	▲13		▲2,315	
連結計	4,951 (▲226)	901 (60)	95 (5)	36 (▲9)	915 (▲51)			6,900 (▲220)
	5,178	841	89	45	966			7,121

※上段は当期実績、下段は前期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

※第1四半期連結会計期間より、組織編成の見直しに伴い、従来「食品事業」セグメントに分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を、「食品事業」・「水産事業」の2区分に変更しており、遡及適用後の数値で前期と比較を行っている。

【参考】セグメントマトリックス 営業利益(前期比)



(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	24 (▲10)	9 (▲0)	78 (44)	0 (0)	9 (▲4)		122 (29)	▲3 (▲13)	118 (15)	4.1 (0.6)
	34	10	33	▲0	14		93	9	102	3.5
食品事業	78 (1)	20 (8)		7 (▲1)	21 (2)		128 (10)	▲0 (▲2)	127 (8)	3.8 (0.3)
	76	12		8	19		117	1	119	3.5
ファイン事業	24 (0)			0 (▲0)			25 (▲0)	0 (▲0)	25 (▲0)	9.6 (▲0.2)
	24			1			25	0	26	9.9
物流事業	19 (▲0)						19 (▲0)	0 (0)	19 (▲0)	12.0 (0.0)
	19						19	▲0	19	11.9
その他事業	4 (▲7)			0 (0)			5 (▲7)	▲0 (▲0)	4 (▲7)	2.1 (▲1.0)
	12			0			12	▲0	11	3.2
全社経費						▲67 (▲4)	▲67 (▲4)	0 (▲0)	▲67 (▲5)	
						▲63	▲63	0	▲62	
仮計	151 (▲17)	30 (7)	78 (44)	8 (▲1)	31 (▲2)	▲67 (▲4)	232 (26)			
	168	22	33	9	33	▲63	205			
連結調整	5 (0)	1 (1)	▲6 (▲13)	▲0 (▲0)	▲3 (▲3)	▲0 (▲0)		▲4 (▲15)		
	5	▲0	6	▲0	0	▲0		11		
連結計	157 (▲16)	31 (9)	72 (31)	7 (▲1)	28 (▲5)	▲68 (▲4)			228 (11)	3.3 (0.3)
	173	22	40	8	34	▲63			216	3.0

※上段は当期実績、下段は前期実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはのれん償却、たな卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

※第1四半期連結会計期間より、組織編成の見直しに伴い、従来「食品事業」セグメントに分類していた連結子会社の一部のセグメント区分を、「食品事業」・「水産事業」の2区分に変更しており、遡及適用後の数値で前期と比較を行っている。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社

2020年5月22日

証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部経営企画IR課

03-6206-7057

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

